

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

「麻生副総裁に直談判」

「青年就農給付金について物申す」

日本全体で直近の49歳以下の青年就農者は1万1410名、前年度と比較して減少し、政府が目標としている毎年2万人の定着には届いていない状況です。そうした中、新聞報道でも大きく取り上げられましたが、農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金）の交付対象として、受給対象者の前年世帯所得が600万円以下とする国からの通知が突然出されました。国会事務所にも多くの電話をいただいたところです。農業を志す若者や農業を学ぶための研修教育機関などから戸惑いの言葉を聞きました。

「政府は本当に新規就農者を増やそうとしているのか。地域農業における家族農業や中小規模の農業者をはじめとした多様な農業者を評価しているのか」参議院決算委員会冒頭、麻生財務大臣に問いました。

先行き不透明な中、新規就農者を定着させる大事な事業であるので、現場に不安や不信感が広がらないようしっかりと対応していきます。

「手段と目的を間違えぬよう」

4月の統一地方選、熊本県内でも県議会議員選挙をはじめ多くの地方議会

の選挙が行われました。私は、国会の隙間を縫うように様々な地域におじゃましました。かつて青年部活動を共にした仲間の元へも駆けつけました。そうした仲間が皆、地域の信頼を勝ち取り選挙戦で勝利したこと、全国各地にいるということは本心に強いことです。農家の方と話をすると、地域から若者がいなくなっている事、水田や畑の継承、鳥獣被害、農協改革への不満など多岐にわたる話題が飛び交います。特に、今国会では、農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部改正法案が審議されています。JAの事業運営に携わってきた立場からすれば、この農地バンクと言われる農地中間管理事業そのものが地域に馴染んでいない面があります。農地の利用集積が目的ではありません。地域の農業を維持し、守り抜くための手段として有効に機能するように審議を尽くします。



▲参議院決算委員会へ麻生副総裁へ直談判

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「引き続き、全国を訪問」

「私の激励会への

多くの皆さんの出席に感謝」

3月7日のJA全国大会後に、私の励ます会を開催していただきました。翌日には、JA全中の通常総会が開催されるということもあり、組合長はじめ多くの関係者がお残りになったので、総勢700名超、熊本からも多数の皆さんに出席いただき、会場は満杯でした。ありがとうございます。

当日は、農林幹部議員の先生方を中心にご出席をいただきました。中家全中会長、飛田農政連会長（私の後援会長）のご挨拶の後、森山裕国対委員長、議員連盟の都市農業研究会の石原伸晃会長、塩谷立農林・食料戦略調査会長、野村哲郎農林部会長にご挨拶をいただきました。

森山先生の挨拶は、JAグループを代表する議員として、野村先生は県中央会の専務から、藤木先生は組合長から、そして山田はJA全中の専務から、バランスよく選ばれてきていることが、党の議論に厚みを与えていると紹介いただきました。また、石原先生は、都市農業振興基本法や都市農地の貸借に関する法律制

定に、一緒に取り組んだ苦勞話を、また野村先生には、JA改革に関わる党の議論に共に苦勞した話をさせていただきました。

その後、全国農業会議所の二田会長、藤木議員、JA全国女性協の川井会長、JA富山中央会の伊藤会長にも話していただき、JA全青協の水野会長にファンパロー三唱をしていただきました。皆さんには改めて感謝申し上げます。

【連日、各県を訪問】

ところで、毎日、土日も含めて各県を訪問しています。各県とも、ともかく山田としおを知ってもらおうべく、私を前面に出してもらい、決意を述べさせていただきました。各県の会長さんに同行していただいたのは、本当に頭が下がります。それほど、皆さん、JA攻撃と自己改革の取り組みに危機感を持って取り組んでいただいています。感謝です。私も頑張ります。

そのなかで、国会があるので、どうしても出席しなければならぬ「禁定」があります。委員会も、全委員会が一斉に開会される場合などは、代理がかなわず、出席せざるを得ません。JAの皆さんには相当前から日程を組んでいたというながら、国会の日程で訪問できなくなる場合もあり、ご迷惑をおかけしております。申し訳ございません。どうか、ご容赦ください。

朝早く自宅を出て、夜も寝に帰るだけの毎日ですが、こうして全国を回れる私は幸せ者です。皆様へ感謝です。